

事業・施策案リスト 【「暮らし」の柱】 *報道等での取り扱いにはご注意ください。

復興目標(目指す将来像)	目標達成のための基本的な考え方	重点施策		事業		
		名称	施策内容	事業名	事業内容	
市民の「暮らし」市民がみな、「川との共生」という原点に回帰し、常総からこその日々の暮らしを堪能している。	川とともに暮らす	水迎の安心と魅力を高める	■環境・景観や用水・排水系統の整備	吉野公園の四季花公園化及び防災活動拠点整備	小貝川の旧河道を利用し自然の景観を活かし、市内はもとより関東近県の太公望に人気の吉野公園の遊歩道や物産販売所・四季折々の花等を整備する。釣い人以外の来園者の増加を図る。また、公園を整備することにより、公園利用者の安全性の確保、地域住民の交流の場及び防災活動拠点としての利活用の促進を図り、ふるさとを愛する心を育てる。	
				鬼怒川散歩道整備	鬼怒川に沿って散歩やサイクリングができる場を整備し、ラジルの国花・イペーの並木道を整備する。	
				浄化法推進	国土交通省が提示する浄化法(http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/10_study/question/32.htm)を最大限に活用・実践し、鬼怒川・小貝川・八間堀川の水質を高める。昔のように子供が泳ぎ、鯉や鮎が泳ぐ姿が理想的である。	
				児童生徒・保護者支援カウンセラー等派遣	児童生徒や保護者、教職員の心のケアのために、各小中学校に、臨床心理士等を派遣し、組織的・継続的な支援を行う。また、市適応指導教室に、教員経験が豊富な教育相談員・心理学を専攻するカウンセラーを配置する。さらに、各中学校に、心理学を専攻する心の教室相談員を配置する。筑波大学医学医療系との連携も視野に入れている。	
				ふれあい促進	ボランティアやNPO、大学と連携して、空き家等を活用した交流拠点の整備を行い、被災者が楽しみ、ふれあいのある暮らしを保障する。母親が気軽に集える場を設け、防災や市内行事などの情報を入手できるようにする。	
				地域包括ケアシステム構築	單身高齢者・世帯や高齢者夫婦のみ世帯、認知症高齢者の増加が予測されるなか被災者の心のケアのみならず、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするため、介護だけでなく、医療や予防、生活支援、住まいを包括的に提供する地域包括ケアシステムを構築する。	
				まちを学び、川に学ぶ	■常総の歴史や河川・水資源の教育	小学校1、2年生生活科と関連させた、地域と生活・市の歴史や様子・公共物や公共施設の利用等に関する市域の内容を編集した「わたしたちの常総市」を活用し、水害の記憶や災害に対する備えについて再確認する。当該副読本は、平成27年度当初から改訂作業を行ってきた。改訂途中に水害が発生したため、その記録を加えた形でH27年度中に完成する。また、総合的な学習の時間の地域学習に活用する資料集であるため、水害の記憶や災害対策を語り継ぐ一助となる。
				川を楽しむ、健康になる	■スポーツ・コンテント(水迎ウオーキングやカーヌーなどのアクティビティ)■大学等との連携	常総市の歴史や河川・水資源に関する教育機会の提供、復興祈念として展示会を開催する。旧水海道市及び旧石下町のこれまでの歴史や災害等にかかわる歴史を学ぶことで、いざという時に行動できる知識を蓄える。開催時期は、被害を受けた常総市地域交流センター(豊田城)及び生涯学習センターの使用再開時に開催する。
				水害経験を資源に転じる	■治水先進地のツアー	川との共生、防災教育、水害経験の伝承をテーマとする水防学習館及び防災アーカイブスを設置する。
						鬼怒川東側堤防等を利用して、ウオーキングイベントを開催する。※堤防歩行可能部分十その他道路を使用 小貝川堤防等を利用して、サイクリングイベントを開催する。※サイクリングロード整備部分十その他道路を使用 鬼怒川を利用したスポーツ・コンテント(カーヌーなど)を開催し、実施する。筑波大学体育系と協働し、川を楽しむながら健康になる常総市ならではのコンテントを生み出す。鬼怒川にEポートを設置し、平時に川を楽しむ、非常時にはポートを使って避難できるようにする。 「小貝川三大堰を巡る歴史ウオーキング」マップを活用し、ウオーキングイベントを実施する。常総市観光促進協議会で作成した「小貝川三大堰を巡る歴史ウオーキング」マップを活用し、常総市、つくはみらい市、守谷市、取手市の4市で連携して、自然に親しみながら行う健康づくり、広域的な観光を促進する。 水海道地区・石下地区の中心市街地を市内外の小学生10区・中学生7区で輪を繋いで走る。市街地を舞台に駅伝大会を実施し、まちににぎわいを取り戻すきっかけとするとともに、復興機運の維持・高揚をねらう。
		常総市や観光協会、関東鉄道、大学生などと連携し、市外の方が常総の水害を学ぶツアーを実施して、地域にお金を落ちる仕組みをつくる。また、被災した地区ごとに、その地区の被災状況を、集会所や公民館、空き店舗などを活用して展示することで、各地区を周遊できるようにする。その際に、既に取り組まれているらくらく自転車事業を拡大させ、コースを整備する。また、コースの速上で立ち寄れるよう、お動めの店舗やお土産などの情報を発信する。 映画撮影地として有名な常総市。川や水資源などをテーマにした自主映画の撮影を募り、支援する。				

事業・施策案リスト【「くらし」の柱】*報道等での取り扱いにはご注意ください。

復興目標(目指す将来像)	目標達成のための基本的な考え方	重点施策		事業名	事業内容
		名称	施策内容		
				常総市復興祈念 関東鉄道スリーナイン	関東鉄道の貸切列車内で演劇を実施する。常総市をテーマに沿線の風景とともにスリーナインを展開させ、地域の魅力、復興をPRする。公演後は水海道市街地を散策し、地元の名産やグルメを楽しむ。また、車内演劇、散策等に地元出身の羽田美智子さんに協力をお願いし、集客力や話題性を高める。